

コミュニティ

久大

My home town story

笠縫東

2023.MAY
135号

5

[編集発行]

公益財団法人 草津市コミュニティ事業団

[作成協力]

笠縫東学区まちづくり協議会

5月から6月に移りかわる頃を七十二候では麦秋至(むぎのじきじたる)と言います。春なのに「秋」とは、これ何に? 麦はこのころに収穫の時期を迎えると同時に金色に輝きます。麦にとっては収穫の秋ということだ、この字がてられるのだと。話は少し逸れるようですが、「麦秋」の文字にビールを連想してしまうのって私だけ?

見上げる、アオバナ摘み

伊佐々川放水路にかかる大日大橋でベンチを見つけました。
ここで一休みといきますか。

ふと見上げると、美しいステンドグラスについて。昔、この辺りで盛んだったアオバナ摘みの様子が描かれています。夏場の作業の大変さから地獄花とも呼ばれたアオバナ。今は優雅に、涼やかに、私たちを見つめます。

さあ、暑い夏がやってきます。

2023.MAY
135号

5

五感でまちを感じる

市民参加型環境活動団体 草津塾

丸林浩二さん(76歳)
藤原敏雄さん(72歳)



あなたが最後に川に足をつけたのはいつですか。その時のこと、今でも覚えていますか。ヒヤッとした水の冷たさ、ゴツゴツとした足の裏の感覚、パクパクと息する魚のヌルっとした感触、草陰から何かが出てきそうなドキドキ感……。五感をフル動員して自然を感じたあの日。

ここ笠縫東には、子どもたちにそんな「あの日」を創ってくれるオジサンたちがいます。

現在約10名。笠縫東だけでなく、学区外からも集まります。一人ひとり、これまでの経験も職業も違います。後から職業を知つて「えつ、そうなの? どおりで上手なわけだ」と笑い合うこともあります。

「おしゃべりや飲み会、旅行も

それだけではありません。普段は葉山川の美化活動や水質調査、地元メダカ池の保全活動、琵琶湖岸の利用者の安全・美化バトルなどと大忙しのオジサンたち。「未来を担うこどもたちに体験学習を、大人たちには生涯学習を、環境問題で多くの皆さんと交流を」がモットーの草津塾。その歴史は意外と古く、1997年の設立です。

それだけではありません。普段は葉山川の美化活動や水質調査、地元メダカ池の保全活動、琵琶湖岸の利用者の安全・美化バトルなどと大忙しのオジサンたち。「未来を担うこどもたちに体験学習を、大人たちには生涯

ます。1年生から6年生まで、全ての学年で地元の自然を体感する環境学習を提供してくれています。その日数はなんと年間17ヶ月にもなるのだとか。

そもそも誰もが知っています。1年生から6年生まで、全ての学年で地元の自然を体感する環境学習を提供してくれています。その日数はなんと年間17ヶ月にもなるのだとか。

草津塾は学習塾ではなく、けれど、笠縫東小に通う

子どもなら誰もが知っています。1年生から6年生まで、全ての学年で地元の自然を体感する環境学習を提供してくれています。その日数はなんと年間17ヶ月にもなるのだとか。

草津塾は学習塾ではなく、

青いジャンパーと 長靴と

しばしば。なんとも愉快で気持の良いオジサンたちなのです。

仕事以外の仲間

楽しくてね、仲間と呼べる友だちもできました」

何ができるないかと思っていた時、近くの葉山川を清掃している草津塾に出会ったのでした。

地域は、行政は

藤原さんの草津塾との出会いもユニークです。現役時代の藤原さんは、仕事は土木技師でした。約20年余り前(平成12年ごろ)河川の整備・維持管理に携わっていた藤原さんの元に草津塾の代表(当時)が訪ねてきました。苦情とは言え、今よりも自然がもつと身近だった時代に少年期を過ごした世代です。お隣の瀬田で生まれ育った丸林少年は琵琶湖で泳ぎ、モロコシを釣り、瀬田シジミを獲る毎日。虫捕りも大好きでした。サラリーマン時代は転勤族で、笠縫東に引っ越してきたのが約40年前のこと。やがて定年を迎えて、県のレイカディア大学に入学。ここで、健康・社会参加くらしと地域など様々なテーマで学んだことが地域で活動するきっかけとなりました。

もう一つ大きかったのは、仕事とは関係ない仲間がたくさんできしたこと。受講生は現役を退いた人ばかり。ここでは前職に関係なく同じ立場で過ごします。

一方、当時は「Mother Lake(マザーレイク)」として琵琶湖を中心とした環境配慮型政策への転換期。「土木が環境にできることは」と思案していく藤原さん。そこで、整備で生じた葉山川沿いの土地を使って何かできないかと、草津塾とともに検討してみました。そうして、環境のバロメーターでもあるメダ

葉山川の美化活動や水質調査、地元メダカ池の保全活動、琵琶湖岸の利用者の安全・美化バトルなどと大忙しのオジサンたち。「未来を担うこどもたちに体験学習を、大人たちには生涯

か? 要望か? と身構える藤原さんに代表は言いました「地元の葉山川を整備してもらつてあ

りがたい。私たちでできることはないか」。こうして始まったのが葉山川の美化活動です。

一方、当時は「Mother Lake(マザーレイク)」として琵琶湖を中心とした環境配慮型政策への転換期。「土木が環境

にできることは」と思案していく藤原さん。そこで、整備で生じた葉山川沿いの土地を使って何かできないかと、草津塾とともに検討してみました。そうして、環境のバロメーターでもあるメダ

か? 要望か? と身構える藤原さんに代表は言いました「地元の葉山川を整備してもらつてあ

りがたい。私たちでできることはないか」。こうして始まったのが葉山川の美化活動です。

一方、当時は「Mother Lake(マザーレイク)」として琵琶湖を中心とした環境配慮型政策への転換期。「土木が環境



池の造成後は地元団体の草津塾が日常の管理と活用を行なう、今でいう「協働」のプロジェクトになりました。

こうして笠縫東の地にメダ力池が生まれました。仕事がつないだ縁。藤原さんはその後、葉山川の清掃活動に時々参加するようになり、定年を機に草津塾のメンバーになりました。

「何もやつてなければ、今ごろテレビだけの毎日だったかも。草津塾に出会って、体もアタマも動かします(笑)。青いシャンパンを見て子どもが『草津塾のおっちゃんや〜』なんて声をかけてくれるのが嬉しいですね。親御さんが礼を言ってくれることもありますよ。子どもたちが家でも話題にしてくれているのでしょう」と丸林さん。

定年後のつながりづくりを求めた丸林さんと仕事の縁でつながった藤原さん。草津塾との出会いはそれどころか、共通するのには自ら一步を踏み出したところでしょう。

藤原さんは塾のこれからを話します。「草津塾は定年後の仲間づくりになりました。先輩方が長年積み重ねてきた貴重な資料やデータを将来につなげていきたい。でも、さすがにメンバーも高齢になってしまった。興味や関心のある人に入つてもらいうがら新しいやり方を取り入れていくことも大切ですね」

草津塾は葉山川・琵琶湖の美化活動・葉山川の水質調査・笠縫東小などでの学習支援など、琵琶湖や葉山川を中心とした環境保全活動をしています。令和4年からは市との協働で「いきもの自然学校」も実施。

葉山川美化活動 第1日曜
琵琶湖岸の安全・美化パトロール 月1回
水質調査 年1回 葉山川7か所



<https://ameblo.jp/kusatsujuku1/>

藤原さんは駅前のマンションから笠縫東にやってきます。「ここは程よく街で、程よく田舎。そのバランスが良いですね。子どもたちの成長にとても良い環境だと思います。大人になって、生まれ育った場所や自然を感じた体験を語れるってステキなことですよ」

「琵琶湖の向こうに湖西の山々が見える景色がすばらしい。高齢者と子どもが一緒に遊べる場所がもっとあれば楽しいだろうなあ」とは地元に暮らす丸林さん。

そこに田んぼがあって、川が流れて、たくさんの生き物がいることを私たちに気づかせてくれるオジサンたち。今日も自転車に乗って西へ東へ。

笠縫東

草津駅の北側に近接し、大江靈仙寺線・湖南幹線・西渋川下笠線などの幹線道路が整備された交通至便な住宅地と、葉山川・伊佐々川(放水路)、中ノ井川、駒井川が流れる緑豊かな田園が広がります。

昭和45年ごろから始まる草津市の都市化に伴い急激に人口が増え、昭和53年に笠縫東小学校が笠縫小学校から分離開校したことにより笠縫東学区が誕生しました。現在14の町内会により構成されています。独居世帯の増加やコミュニティの希薄化など、今後一層、多様化・複雑化する地域課題を解決し、住みよいまちを築いていく自主的なまちづくりを進めていくため、平成24年に笠縫東学区まちづくり協議会が誕生しました。

※笠縫東学区まちづくり協議会HPより一部抜粋・改訂

● 総人口 : 10,796人 (138,284人)

0-14歳 : 1,601人 (20,140人)

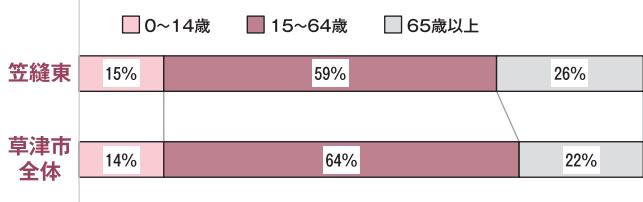
15-64歳 : 6,415人 (87,080人)

65歳以上 : 2,780人 (31,064人)

● 世帯数 : 4,772戸 (62,601戸)

● 65歳以上の割合 : 25.8% (22.4%)

※外国人を含めた集計/カッコは草津市全体
草津市HPより(令和5年2月28日時点)





ひとまちぶらり 笠縫東

大日大橋の ステンドグラス

見上げると「アオバナ摘み」と
「講踊り」のステンドグラス

(社福)若竹会 ベーカリーカフェわかたけ

テラスもあるレンガ造りの解放的な
パン屋さん。散歩の途中で焼きたて
パンとコーヒー・紅茶はいかが。
人との出会いのある場所、障害者の
就労支援をしています
P7

笠縫東まちづくりセンター

新鮮な野菜が毎日並ぶグリーンマーケット。
毎週土曜日には土曜市を開催 P7

デイサービスセンター なぎさ

まちセンで餅つき大会の際には
利用する高齢者が参加交流

川原小久保の交差点 みどり会

計画段階から地域住民の声を届け、現在も
歩道の緑の手入れを行う。
梅雨には歩道に咲く紫陽花にいやされます

平井西町児童遊園

ご近所さんをつなぐラジオ体操。
毎朝のラジオ体操から会話が生
まれます。
なんと1000回を超えて今も続く
P7

笠縫東児童センター

0歳児から小学生まで幅広い対象年齢
の教室やイベントがある。
センターを飛び出して公園で読み聞か
せをすることも。
子どもたちが叩くあゆみ太鼓は勇ましい

川北精肉店

住宅街にある創業約35年のお肉屋さん

むし道楽

昆虫専門店。
マニアックな常連さんも

咲楽 sacra

陶器・ガラス・木工・革小物・洋服・食品など、作り手と
その品を手にする方との縁を生む、オーナーさんこ
だわりのセレクトショップ

熊野神社

神社の神の使いは三本足の
「ヤタガラス」。日本サッカー
協会のシンボルマーク

葉山川沿いの桜並木

散歩しながらお花見できる。桜をバックに入学式の記念
写真スポット。笠縫東小学校では葉山川学習もある。
カワセミが見られることも。カモとカメとコイもいるよ

笠縫小学校

市道
(鶴見街道)
西消防署

↑琵琶湖へ

第二
学校給食
センター

草津塾 メダカ池

小学校の授業で観察会
(天神社横の道から行くと
葉山川のたもと辺り)

天神社

天神社のある川原町は
葉山川によって堆積した
土地に開かれたところ

歴代駒井城主の墓石がある。
ちょんまげのような形の石塔は
江戸時代の武士の墓石の特徴

風樹工舎
木工作品の工房

葉山川沿いの、 サイクリングロード。

急勾配もあり、自転車こいで
ゼーゼー。西の空をみると
広い空に夕焼けが美しいの
で癒されます

TUKUHIKO
人気のレストラン

(社福)こなんSSN シェスター

グリーンマーケットに
クッキーなどを提供

建分大明神
この場所には駒井城があった

環境衛生センター (グリーンハット)のホタル

中ノ井川と駒井川の合流あたり

正三神社 阿弥陀寺

木造の十一面觀音菩薩が安置
されている

NPO法人宅老所 心

かやぶき屋根の民家。
1000円居酒屋や子ども食堂を開催。
手芸品などグリーンマーケットに提供
P7

川原町よそじ会

川原町には40~50代の住民が中心となる町
内会のお助け隊「川原町よそじ会」があります。
納涼祭に出店するおでんは会に代々伝わるレ
シピでおいしくて人気 P7

駒っ子の会

スクールガード・百歳体操・グラウンド
ゴルフ・野菜市などを通じて、新旧住民
の交流機会をつくる P7

どこに
いるかな



草津市コミュニティ事業団
マスコットキャラクター
まち活マッチ
×3

マップの中にマッチがいるよ。探してみてね

FEATURE

子、孫の代まで続く道だから

グリーンハイツ北町内会

大條紘史さん(79歳)・伏見昌紘さん(82歳)

いつもの道で仕事に向かい、いつもの道で帰宅する。今日もあの人とあいさつを交わし、いつもの花壇には四季折々にきれいな花が咲き乱れる。散歩していた道の「ミニも、いつしかきれいに片付いていた」。見慣れた日常の風景もその影には誰かの苦労や支えがあるのかも。

学区の皆さんに知つてもらいたい、この道の物語。

静けさと喧騒と

て、生活がどんどん便利になつて
いきました」

ここは「川原小久保」の交差点。南北には県道が、東西には市道が走り、今日もたくさん車が行き交います。周囲は閑静な住宅街。住宅地の静けさと道路の喧騒、この静と騒の対比がなんと印象的です。

この辺りは約40年前に開発された住宅街。それまでは大きな池と田畠が広がるのどかな風景だったといいます。

開発間もなく移り住んできた伏見さん。「子どもが生まれ、家が手狭になつてきて越してきました。この将来性を見越して決めましたね。駅まで歩いても15分ぐらい。すでに小中学校はあつたし、すぐにスーパーやコンビニ、病院なんかも次々にでき

同じころ移り住んだ大條さん、「当時は仕事が忙しく、帰宅が深夜になることもしばしば。バスも少なかつたので、すぐに車を買いましたね(笑)。定年後はカメラが趣味になり、朝晩琵琶湖まで撮影に行きました。対岸の比良山系の眺めが美しく、改めてこのまちの良さを感じました」

子や孫の世代まで

やつと開かれた説明会でも一方的な話に終始し、住民の不安は募るばかり。最も不安だったのは県道が高架になり立体交差することでした。

「住宅が高架下になつてしまふと日光が遮られたり、騒音や振動に困ったり。雑草が繁り、暗い汚い・危険というイメージもありました。排気ガスも、より広がつたりして健康被害も心配でしたね」と大條さん。

道路づくりのプロ

よく行政と話を積み重ねていく必要があつたのです。

当初から委員だった大條さん。「道路委員会での約束事は①道路の建設自体には反対しないことでした。

②住民同士がケンカをしないの2つだけ。反対や要望する団体ではなく、子や孫の代まで健康にここで暮らせるまちになるよう、行政と一緒に良い道路を造つたいという思いが強かつたですね」

そこで町内会では市や県と話をしていく窓口として道路委員会をつくることにしました。毎年交代する役員では継続的な話ができるなど様々な問題に対しても全対策など様々な問題に対しても意見を取りまとめ、根気

人口も便利さも成長を続けてきたまちに問題が持ち上がったのは平成2年のこと。それは大きな県道と市道ができ、ここで交差するとの話でした。道路ができると便利になることは歓迎ですが、生活者としては「どんな道

一緒に造るといつても、行政は道路づくりのプロ。こちらも知識がないと納得できる道路づくりなんてできません。会議で行政職員が持つてくる道路や交通関係の分厚い本を見つけては自腹で買って勉強したのだとか。



大條紘史さん



伏見昌紘さん

「書籍や資料代だけでも10万円はかかるんじゃないかな。ここで生活していく者として将来を考えると、もう必死でした」と当時を振り返る大條さん。

道路委員会は幾度も町内での懇談会やアンケートを重ね、大学による環境や健康に関する調査を実施したり、先進地に行つて話を聞いたりと活発に動き出しました。行政との協議では厳しい局面もあったのだとか。

こうした努力と苦労が数年続き、ついに平面交差に変更となつたのです。それでも騒音・振動・大気汚染の対策として、舗装や歩道の街路樹の選定など話を詰めていくべき点は次から次へとあります。

「散歩中の高齢者や小学生が『ありがとうございます』なんて声をかけてくれるのが励みになります」と伏見さん。

「これまでの役員さんたちの頑張りや、真摯に耳を傾けてくれた行政の姿勢があったから今の環境ができました。感謝ですね」と大條さん。

て、その後も道路委員会は続けて行政と共に歩んでいます。

自分たちの手で

地元では「行政がここまで納得できる道路をつくってくれたのだから、歩道の維持管理は自分たちの手で」と、約20年前にみどり会を設立。月に1回、歩道のゴミ拾いや草引き、樹木の剪定などの作業で汗を流します。

その効果でしょうか。活動を始めた当初は「ミや吸い殻のポイ捨てがいっぱいだったのが、最近では目に見えて減ってきているのだとか。

住民の高齢化もあり「できる時に、できる人が、できることをする」を合言葉に無理のない範囲で「ツッツ」と活動を続けています。

異例ともいえる住民と行政による道路づくり。プロである行政に対して、独学で学び、話し合いを重ね、折り合える点を見つけていく粘り強い活動がありました。法律の壁・専門の知識や用語・複雑な手続き……道路のプロではないけれど、そこには生活者としての誇りがありました。いつもの風景の陰には、こうした苦労があったのですね。

さあ皆さん、今日も元気にいってらっしゃい。



HPまちサポくさつなら、笠縫東学区のおはなししがいっぱい!

宅老所 心



川原町よそじ会



駒っ子の会



平井西町 ラジオ体操



(社福)若竹会 ベーカリーカフェ わかたけ



笠縫東 グリーン マーケット





もじうめスツキリ

笠縫東にまつわるスッキリ。□に入る5文字を答えてね。



問

- (1) 最勝寺に咲く「クマガイ」という品種の花
つ□き

(2) 「宅老所心」の屋根は今ではめずらしい
かやぶ□

(3) 初夏の夜、中ノ井川・駒井川の合流あたりで見られます
□たる

(4) 令和7年春にオープン予定の新しい施設
かさぬいひが□まちセン

(5) ウォーキングしたり、お花見したり。
カワセミに会えることも
は□まがわ

應募方法

ハガキに①答えの5文字②住所・氏名・年齢・電話番号
③今号の感想を添えて下記まで。FAX、メールでのご応募
もお待ちしています。

必着 5月19日(金)

宿先

〒525-0032 草津市大路二丁目1番35号(キラリ工草津)
(公財)草津市コミュニティ事業団
「コミュニティくさつ5月号」係
✉ com-com@mx.biwa.ne.jp ☎ 565-0411

プレゼント

応募いただいた中から抽選で
笠縫東グリーンマーケットの利用
券(1000円相当)を5名様にプ
レゼント



成行

笠縫東のここが好き!



「コミュニケーション」の経費（企画編集、印刷、折込など）は1部あたり15円です。この経費は事業団が行う公共施設運営管理（指定管理）などの経費削減などで得る独自の収益金のほか菖蒲津市からの補助、市民の皆さんからの寄付および本誌に掲載している企業等の広告でまかなっています。

